

令和3年度文京区障害者地域自立支援協議会 第1回地域生活支援専門部会要点記録

1 実施状況

第1回 令和3年8月27日（金）

- (1) 部会長の互選・副部会長の指名について
- (2) 令和3年度文京区障害者地域自立支援協議会について
- (3) 本富士地区の特色・成り立ちについて

2 内容総括

- (1) 部会長の互選、副部会長の指名

互選・指名の手續により、安達部会長、浦田副部会長に決定。

- (2) 令和3年度文京区障害者地域自立支援協議会について

令和3年度の検討事項：「令和3年度に地域生活支援拠点を設置する駒込・富坂地区の地域課題への対応について検討すること」を確認。

- (3) 本富士地区の特色・成り立ちについて

ゲストスピーカー(深田様(本富士地区民生委員・児童委員)、小川会長(本郷二丁目弓二会町会長))をお招きし、社会福祉協議会本富士地区コーディネーターの進行により、本富士地区の成り立ちや特色について学ぶ機会を設けた。

○本富士地区の特徴やつながりについて

→天三町会、同朋町会、湯島天神下を担当。高齢の方が多く、コロナの時期も一人一人お声かけをして関わってきた。障害者の方の家にお伺いする機会がなく、今後はそういった関わりもしていきたい。

→本郷三丁目近辺の本郷二丁目弓二会という町会の会長をしている。

マンションの高層化に伴って、つながりが見えづらい地域と感じている。

ただ、PTA、商店街、お祭りなど、地域の方々と関わりを持つ機会を多く得ることができ

た。町会活動の中でも、マンションの子育て世代の方々に参加していただいて、横のつながりをつくっていきたいと思って活動をしている。

平成18年から高齢者の見守りであるハートフルネットワークに参加。オートロックが増え、上まで行くことができないので、高齢者や小さなお子さんの状況が分かりづらくなってきた。

本郷は、昔からのつながりがあるが、マンションが増え、弊害が生まれている。全体的に見守れる環境づくりは急務と感じている。

○中高年の方やひきこもり等で、気づきがあった際の行動や関係機関への相談について。

→周りのいろんな話を聞き、どこに連絡をするかを詰めていく。古い家が多く、周りの人と付き合わなくなってそのままという方がいる。文京区はお金の心配がないひきこもりの方が多く、親子両方で何かあったときに心配。

→町会役員はほぼ高齢者であるが、アクティブシニアの方が多く、LINEで連絡を取り合っている。また、新聞販売店を経営しており、関わりが持てる場所として活用。様々な話から得られる情報がある。お年寄りから子どもまで、手の届く範囲でのお声かけはしている。

○地域の人にとって、高齢者、子ども、障害を持っている方で、関わりの面とか気づきの部分で、感じられること。

→自担当のところは、緊急連絡カードとか、防災の要援護・要支援、位置を把握している。直接お伺いする習慣がなく、中までは入っていないので、難しいと思っている。

→生活の中で見かける機会はほぼない。近隣の施設との交流はある。

PTA会長をやっていたときに、放課後遊びなどの事業を実施している中で、障害のある方でも参加できる遊びに、参加し、もう成人されている子もおり、関わる場面はあった。

○お二人とも地域で目配りをして、見守りつつ情報を収集している。高齢者や子どもと比較し、障害は見えてもなかなか入りにくい面で課題があった。

【質疑応答・感想など】

・住民同士を、地域をサポートする地域の方々の視点で、民生委員や町会長の方だと、どのような相談先があるのか。

→お子様に関しては、まずは児童委員。高齢者のときは、包括センター。自分にできること

は、歩いて情報を集めること。

→民生委員さん、児童委員、後は行政側、ケース・バイ・ケースで連絡。

また、行方不明の連絡が入るときは、捜索協力をしている。子どもに関しては、区と提携を結んで、夜中の時間帯で、ご家庭の外、例えば電気がついているか、窓が開いている等、細かい情報を調査協力している。

→高齢者における包括同様、障害に関する身近な相談場所として拠点が求められていると感じる。地域でリーダーの方と拠点が協力していけるとよい。

- ・地域での声かけや歩きまわること、情報収集している点が大事と感じた。
 - ・地域で障害に係る困りごとを相談しようという立場に拠点がなれるよう、頑張りたい。

 - ・現在障害福祉部会に所属し、障害者の方との関わりを模索している。当初計画していた当事者との交流会等がコロナ禍で実現出来ていない。実際、地域で障害者の方との関わりが無い。障害者の方は、各事業所に相談するなど、ネットワークが出来ている印象。障害者関係の方は町で見かけないので、障害者と地域との関わりをどう感じているか。
- 障害の方でも退院の情報が分かれば、散歩の際に辺りを見るなど、専門職との連携はできるか。
- 民生委員が関わる事で、近所に知られるのが嫌だ、と思う人もいると思うと躊躇する。民生委員の関与を望まれるなら、関わりたい。
- 各拠点の職員と障害部会の方が一度顔合わせをして、どういった連携があるか、関わり方への課題をいただいたので、今後考えていければよい。
- ・障害者の方と普通に関わっていける環境をもっとつくっていかないといけない。
 - ・障害をお持ちの方のご家族も、お年を召されての一般的なお困り事もある。まず、生活のご相談に乗るといった感覚をお持ちだと、お話を伺いやすいかと思う。
 - ・専門職や拠点の職員と地域の方が連携して、地域で生活することを支えていけると良い。